最終更新日 ： 2026 年 11 月 10 日
（公社）全日本アーチェリー連盟
総　務　部

全日本アーチェリー連盟に報告された事故事案
（2019 年 11 月～2026 年 9 月）

日付・場所等	事故の状況、対応・対策など
競技会 2026 年 9 月 23 日 競技会場	**<u>矢の競技場外への飛び出し事故</u>** 加盟団体主催の競技会において、70mの競技に出場した選手（高校生）が放った矢が、ターゲットマット（畳）の縁にあたり、的の後方にある築山（土手）も超えて、競技場外に飛び出した。 **【暫定対応】** 高体連での安全教育がなされるまでの間、当該団体主催の競技会には出場を停止している。
高校 2026 年 7 月 16 日 校内射場 （報告 10 月 19 日）	**<u>矢の射場外への飛び出し事故</u>** 高校部活動で 30mの練習中に、生徒が放った矢が上方に大きく逸れた。 直ちに矢を捜索したものの、すぐには見つけることができず、のちに隣家（歯科医院）の駐車場で発見された。事案発生当時、顧問の先生は不在であった。 **【原因】** レストアップした状態で矢を放ったためと思われる。 また、的の後方には防矢ネットが張ってあったが、これを貫通したため。 **【再発防止策】** ・設備面 防矢ネットを新しく強度のあるものと交換する。 防矢ネットに損傷箇所がないかを、定期的に点検する。 より安全な環境で練習できる場所を検討する。 ・運営面 顧問、部員とともに、安全に関する留意事項を再確認したうえで活動する。 可能な限り指導者が付き添い、安全確認を行う。 指導者が不在となる際には、部員同士が相互に安全確認をし合う。 シューティング毎に矢の本数を確認し、本数が合わないと気付いた時点で練習を中止しする。
高校 2026 年 7 月 27 日 校内射場	**<u>矢の射場外への飛び出し事故</u>** 高校部活動で 60mの練習中に、生徒が放った矢が上方に大きく逸れ、射場外に飛び出した。 射場の裏側にある体育館の壁に当たった模様。 的上部には高さ 3～6mの位置に防矢ネットも設置されていたが、これも越えたと思われる。

	【再発防止策】 防矢ネットより上方の強化策を含めて検討中である。
高校 2026 年 7 月 14 日 校内射場	**<u>矢の射場外への飛び出し事故、防矢壁の貫通</u>** 高校部活動で 70mの練習中に、生徒が放った矢が、的の上部に固定されていた畳と畳の隙間をすり抜け、後方のベニア板も貫通し、射場裏のエアコンの室外機に刺さり、エアコンが故障した。（畳、ベニア板ともに古く、劣化していた様子） **【再発防止策】** 原因を究明するまで、一時期間、射場の使用を中止した。
高校 2026 年 7 月 6 日 校内射場	**<u>発射した矢の破損による手のケガ</u>** 高校部活動の練習中に、生徒が矢を発射した瞬間に破損し、裂けた矢の破片 3 本が、左手の人差し指に刺さってケガを負った。（使用矢：イーストンＡＣＥ） **【直後の対応】** 直ちに保健室に移動し初期診断のうえ、救急車の要請が必要と判断し、救急車で市内病院へ急行した。救急外来で破片の除去および消毒の処置を受けた。その後、通院と処方薬による治療を受けた。全治 1 ヶ月と診断された。 **【原因について】** 本人によると、事前に矢のひび割れや老朽化の異常は確認できなかったとのこと。 **【再発防止策】** 練習前や練習中に、矢の状態を丁寧に観察し、ひび、ささくれ、曲がり、異音などがないことを確認すること。また、顧問による用具に関する指導の再徹底と、定期的な点検を行う。
加盟団体 2026 年 6 月 13 日 NTC 射場	**<u>矢（ノック）によるケガ</u>** 加盟団体のトップアスリート事業の練習中において、矢取りする際に、選手自らが的に近づき、的に刺さっていた矢（ノック部分）にて左耳に切り傷を負った。流血していたため、ガーゼと絆創膏にて止血するとともに、保護者および都スポーツ協会に報告した。当日夕方に皮膚科を受診した。 **【再発防止策】** 選手に対して、的前や矢取りでの危険性について、あらためて注意を喚起する。
一般練習 2025 年 12 月 21 日 一般射場	**<u>近射用の畳の落下によるケガ</u>** 一般の射場で、中学生が近射練習をしていたところ、畳が硬くて矢が抜けなかった。そこで、両手で矢を握って勢いよく引っ張ったところ、畳が落下して、腰と膝を打撲した。また、畳に刺さっていた矢 6 本は折れて破損した。

	【原因】 矢を抜く際に畳を押さえなかったこと、畳を釘 2 本だけで固定していたため、強度が十分でなかったことが挙げられる。 **【再発防止策】** 畳が硬い場合には、周囲の人に手伝ってもらい、畳を押さえてもらうこと。 またアロープラ―を使用して、安全に抜くことを指導した。
競技会 2025 年 12 月 7 日 体育館	**<u>矢（ノック）によるケガ事故</u>** 県のインドア競技会において、矢取りに向かった選手が、的に刺さっている自らの矢に額をぶつけて負傷（出血）した。応急処置後、競技続行の意志があったため、それ以降は注意しながら継続した。 **【原因】** 当日の的の高さ（三つ目的）と、普段練習している的の高さ（40㎝ 的）の違いから、注意が散漫になった模様。
高校 2025 年 9 月 10 日 校内射場	**<u>矢の射場外への飛び出し事故、防矢ネットの貫通</u>** 高校生部員 5 名による自主練習中に、30mの練習中に矢が逸れて畳の端をかすめ、防矢ネットの支柱にあたった。支柱に弾かれた矢が射場の外に飛び出した。防矢ネットはほつれていて隙間があった。 事案発生から顧問の先生に報告されるまでに 3 週間の日数が経過しており、報告がなされてから射場付近を捜索したが、飛び出した矢は発見できなかった。県高体連への報告はさらに 13 日後、事案発生から 39 日後になされており、報告体制にも問題があった。 **【再発防止策】** 射場側面の防矢ネットの修繕および練習の方法について、改善をはかった。
協会練習 2025 年 5 月 3 日 県の練習場	**<u>発射時の矢の破損によるケガ</u>** 県の練習場において、高校生の選手（弓歴 3 年以上）が 70mの練習をしていた際、自ら発射した矢が破損（折れ）し、ノック側から約 20 センチ付近が左手（持ち手）に刺さり、出血を伴うケガを負った。保護者などが応急処置を行い、同時に救急車を呼び、大学病院にて処置を行った。 矢はアルミカーボンシャフト、28 インチ。弓の強さ 40 ポンド前後。 4 月半ばに購入したばかりで、的外へ外すなど、特筆すべきことは無かった。 **【再発防止策】** 矢が破損した原因は不明のままであるが、事案を協会員や選手たちに共有し、矢の破損などがないかどうか、あらためて注意を促した。

高校 2025 年 4 月 22 日 校内射場	<u>レストダウンによる指のケガ</u> 部活動の練習中、入部 2 日目の新入部員が、弓をアンカーの位置（顎付近）よりも多く（長く）引いたところ、矢がレストから落ちた。そこで発射したところ、自身の親指と人差し指の付近に矢が当たった。出血があったものの、幸い大きなケガには至らなかった。 **【再発防止策】** 事案の起きた当日は、部の先輩などが少なく、経験者の目が行き届いていなかった。 今後は、先輩の指導・監督のもとで練習をすることを、あらためて徹底することとした。
高校 2025 年 3 月 27 日 校内射場	<u>矢の射場外への飛び出し事故</u> 校内射場（洋弓場）で活動の練習中に、矢を発射したところ、金属音を感じた。 矢取りの際に本数を確認したところ、1 本足りないことに気づいたため、練習を中断し、部員全員で射場内を捜索したが発見できなかった。 そのため、射場外周辺を探したところ、射場に隣接する住宅との間で発見された。 **【再発防止策】** 学校の管理職を交えて現場検証を行い、射場の整備を含めて協議を行った。
練習会 2024 年 11 月 16 日 公営射場	<u>矢の射場外への飛び出し事故</u> 屋外練習場で行っていた練習会で、50mを行射していたベアボウの選手がバットレスの下方に矢を反らしたところ、的台（ダネージュタイプの四脚）の後脚をつないでいる横棒に矢が当たった。その衝撃で、矢がポイント側（約 3/4）とノック側（約 1/4）に折れ、ポイント側が後部上方に跳ね上がり、後方 30m、高さ 9mの防護壁を飛び越え、さらに後方 30m付近まで到達した。 後方の駐車場に駐車してあった自動車の側面にある雨除けバイザー（アクリル製）に直撃し、バイザーを破損させてしまった。 **【再発防止策】** 施設管理者（県スポーツ協会・指定管理者）は、全ての利用者に対して注意喚起を行うとともに、場内にある的台（四脚）の下部に矢が後方に抜けることがないようにネットを取り付けた。 県アーチェリー協会は理事全員へ事故の報告をおこない、各担当する支部に対して事故の報告を行い会員に対する注意喚起を指示した。
月例会 2024 年 10 月 20 日	<u>矢の射場外への飛び出し事故、コンパウンドボウでの暴発事故、防矢ネットの貫通</u> トリガータイプのリリーサーを使用する際、トリガーテンションを軽くなるように調整したところ、コッキングはできても弓のテンションで外れてしまうほど弱くしてしまった。セットアップの際に暴発し、的小屋を飛び越え防矢ネットを貫通した。 **【対応】** すぐに競技を中断し矢を探したところ、施設外１０mの位置で発見した。 幸いにも人的、物損は確認されなかった。また、矢が破損したが、破片は全て回収した。 その後、県協会事務局へ連絡をした。

	【再発防止策】 リリーサー調整のする際は、近射にて安全性の確認したうえで行射する。 リリーサーを含む用具に調整が行き届いている時でも、暴発する可能性は排除できないため、地面と平行にセットアップすることを徹底する。またそれが十分できるポンドの弓を使用する。 **【県協会の対応】** ・事故内容と対応・対策の会員への共有。 ・審判講習会に内容報告と事故発生時の対応方法講習の組み込み。
協会練習 2024 年 6 月 12 日 公営射場	**<u>矢（ノック）でのケガ</u>** アーチェリー初心者講習会で、女性受講者が矢取りの際、自らの矢の的中確認に集中するあまり、矢に顔を近づけ過ぎた結果、誤ってノックの先端で眉間上部を突き、出血した。 近くの指導員が出血に気付き、講習会場で止血と殺菌処置を実施し、出血が止まったことから、負傷は非常に軽微と判断した。当該受講者も受講に意欲的であったため受講を継続した。 （2 日後の講習会も受講し、それ以降も全回受講した） （自由参加のフィールドアーチェリーにも参加しました）。 傷の状態は 2 日後の講習会の際に確認したところ、軽微であった。 スポーツセンターの副館長が、当該受講者に当時の状況と怪我の状態を確認した。 **【対応】** 実技開始前に安全講習はしっかり行っており、指導方法についても不備があったとは考えにくいが、2 日後の講習が始まる前に、主任指導員から再度、安全確認に関する啓発を実施した。 **【反省点】** 事故発生は、受講者自身の注意不足によるものと考えられたが、当日の状況として、主任指導員がこの事故の発生に気付かず、そのまま散会してしまったことにより、事故発生の状況を、即時に共有出来なかった。 今後は、講習開始前の打ち合わせに加え、終了後の情報共有の場を設けることにした。 初心者講習会に限らず、日頃からなお一層の安全管理に努める。
協会練習 2024 年 6 月 8 日 公営射場	**<u>矢の射場外への飛び出し事故、コンパウンドの暴発事故、防矢ネットの貫通</u>** コンパウンド選手が練習中（５０m）コンパウンド弓を使用、引き込みの際、的を狙う位置に弓をセットする前にリリーサーが暴発した。矢が上方向の角度がついた状態で発射され、防矢ネットを突き抜け、射場の的後方の交番の先の、私道と私有地の境にあるブロックに当たって交番前の道路に落ちた。 散歩中の親子の前に落ちたとのことから、親御さんが警察に連絡して状況確認をし、市体育センター・体育協会へも連絡、射場閉鎖した。 **【対応したこと】**

	矢が落ちた際に近くにいた親子 2 組への直接の謝罪 警察（交番）、市文化センター長へ連絡 交番 1 名、警察署 2 名、文化体育センター長、当該選手、一緒に練習していた選手を交えての事情聴取。
月例会 2024 年 6 月 2 日 フィールドーチェリー場 （月例会）	**<u>矢の破損によるケガ</u>** 大会がスタートした最初のポストで、コンパウンド競技者がリリースした瞬間に矢が折れ（推定）、折れた矢の一部がグリップを握っていた競技者の左手に当たり負傷した。 矢の一部（カーボン）が皮膚の内部に残っていると思われたため、救急車で病院（大学医療センター）へ急行し治療を受けた（病院の診断は左母指坐創）。 折れた矢はオールカーボン製（SKYLON PARAGON）で、競技開始前の練習時に異常なし。 **【事故後の対応】** 事案発生から 2 週間後に再診した結果、化膿等の異常がないことを確認した。 協会会員には月例誌にて状況を報告し、再度弓具の点検・管理について注意を促した。
高校 2024 年 6 月 1 日 市内特設射場 （競技会）	**<u>矢の破損によるケガ</u>** リリース時に矢が破損。押し手（左手）にカーボンの破片が刺さり出血した。 会場で養護教諭による応急処置：洗浄、止血、カーボンの破片の抜き取りをし、保護者連絡後、病院搬送、医師による処置：破片の有無を確認。消毒、塗薬。 **【発生時の状況及び処置】** 競技会の行射中に矢をリリースしした瞬間、矢が破損し折れた矢の先端が押し手（左手）の前腕部に当たり、手首付近に 4cm ほどの切り傷による出血が発生した。また、手首付近にカーボンの破片が刺さった。矢は３つに破損しており、リリース直後に１箇所目が破断し、その後、腕に当たって２箇所目が折れたと思われる。破損した矢を確認すると破断付近に曲がりとカーボンの割れが見られることから、行射前から矢にひび割れが入っていたと考えられる。矢の安全確認が不十分で、破損に気がつかず行射したために起きた事故。 **【発生後の対応】** 顧問が状況を確認後、養護教諭による応急処置を行った。その後、保護者に連絡して顧問が病院へ搬送し、医師による処置に至った。数日で回復する見込み。大会後に競技会参加者に対して県協会理事長が弓具破損による危険性と防止策及び矢の具体的な点検の仕方など安全指導を行った。 **【今後の対策】** 協会傘下の選手及び指導者に対して、日頃の用具の安全管理点検を周知徹底する。　また、練習後や競技会前（用具検査）に必ず矢の点検を行うことを徹底する。

高校 2023 年 5 月 2 日 校内射場	**<u>矢の射場外への飛び出し事案、防矢壁の貫通によるケガ</u>** 射場内 50M 練習中に放たれた矢が、常設の的・畳４枚の柔らかい部分を貫通し、防壁（木製 厚さ約 2 ㎝、高さ約 7.5m）の裏へ防壁を抜け飛び出した。 防壁の裏で近射をしていた部員にあたり大きな怪我につながった。近射付近で見ていた部の顧問が保健室へ連れて行き応急処置。その後タクシーにて病院へ搬送、処置に至った。 矢を放った者には全く意図した事ではなく、放った矢は的に的中している。設備のメンテナンス不足と老朽化、また、防壁を抜けてこないであろうという慢心が引き起こした事故である。 **【再発防止策】** 防壁を補強し、且つ防壁の裏での近射練習は行わない。
高校 2023 年 4 月 19 日 室内練習場	**<u>ストリング（弦）の装着失敗によるケガ</u>** ストリンガーを用いてストリングをリムにはめる際に、リムの溝にしっかりはまっていない状態でストリンガーをゆるめてしまい、何かおかしいと感じて、顔を近づけていない状態でストリンガーをゆるめてしまい、何かおかしいと感じて、顔を近づけて確認しようとしたところ、ストリングが外れて、リムが跳ねて、本人の顔（眉毛のところ）に直撃し、流血した。ティッシュで圧迫し止血した。病院で受診。医師の診察では、縫う必要はないとのことで、塗り薬を処方され、その場で保護者に引き渡した。帰校してから管理職に報告。
高校 2022 年 10 月 14 日 練習場	**<u>矢の射場外への飛び出し事故、防矢ネットの貫通（設置不備）</u>** 矢がそれて校舎の窓に当たりガラスが破損した。標的後方の防矢ネットを二重にしていたが、部分的にまくれ上がっていた。防矢ネット自体が重く今までめくれ上がることはなかったが、数日前の強風によりまくれ上がったものと思われる。 **【今後の対応】** 練習前に必ず射場点検を行ってから行射に移ることを徹底する。
公共射場 2022 年 10 月 9 日 （競技会中）	**<u>矢（ノック）によるケガ</u>** 競技会の最終エンド終了後、的前で選手が得点記録を行っている時、競技を終わった選手(高校生)が撤収作業をしようとして標的の下に設置してあった的番号板を回収する際に前かがみになり標的に刺さったままの矢に気が付かず、右目辺りに矢のノックが刺さった。右目右側の瞼と白眼部分を裂傷し出血。発生時は小雨が降っており、急いで撤収作業をしようとしていた。 **【発生後の対応と状況】** 競技委員長が状況を確認、負傷者の所属する高校の顧問とコーチに救急車の要請と顧問より保護者への報告を指示した。救急車と保護者が会場に到着し、病院へ搬送(顧問と保護者同行)。右目瞼を８針縫合、白眼にも傷があり一時的に視力は落ちるが、回復の見込み。 **【再発防止に向けて今後の取り組み】**

	1. 競技委員長もしくは同等のものが設営・撤収の指揮系統を１名に一本化し、作業全体の選手・役員・保護者・サポートメンバーの動きを掌握し、指揮者は作業を行わず、全体掌握に努める。 2. 設営については、選手・役員・保護者・サポートメンバー全員で行うが、開場後、選手の弓具組立前に全体で設営を行い、終了後、選手の弓具組立、競技会準備を行う。 3. 撤収作業については、最終エンドの矢取り終了後に安全確認をして関係者全員で行うこととし、競技委員長もしくは同等の者の指揮のもと全員で行う。その際、選手にはクイーバーを外して作業することを徹底させる。 4. 県協会主催の審判講習会または下部組織審判講習会にて、本件内容を議題とする再発防止に向けてのディスカッションを行い、幅広い意見を集約し、競技運営に関する安全管理、再発防止に向けてよりよいものとするために関係者の安全意識の向上と再発防止策の最新対応更新に務めることとする。 5. 本件の発生状況を県協会会長、事務局長に報告し、各下部組織会長・代表者・事務局等に対して書面報告を行い、関係者全員に内容把握を周知徹底するように注意喚起するとともに、(公社)全日本アーチェリー連盟および競技会場施設指定管理者に報告する。
高校 2022 年 2 月 14 日 公設練習場	**<u>矢の破損によるケガ</u>** 休日に自主練習をおこなう高校生２名と社会人５名・指導者２名で練習をしていた。テント内より、７０M を行射していた男子高校生の矢が破損し、本人の押手である左手第１指の指節間関節と中手節関節の間に５つに折れた矢の前から４つ目の破損の矢が刺さった。破損の矢を回収し詳しく見てみると、ポイント部分に傷があり、練習中に的に当たらず、後方に滑走した矢が破損して指に刺さったと考えられた。滑走した矢の亀裂・破損・傷等を十分に確認せずに射ち続けた結果、リリースした瞬間に矢が弓方向に急激に負荷がかかり亀裂・傷の箇所から矢が折れたと考えられる。指導者・社会人選手がけがの状況・事故現場の状況を確認した後、救急センターに連絡をとり状況を報告した。しかし最寄りの病院が祝日で開院しておらず、救急車を手配することになった。保護者には電話で事故状況を説明し、救急車で病院に行く旨を伝えた。 カーボン矢である事を考慮して、入院して精密検査をすることとなった。 **【検討した今後の対策】** 1. 指導者・選手とともに安全に対する認識を再度確認徹底する。 2. 練習時には、必ず弓具の安全確認を本人に行わせ、弓具の管理を徹底させる。 （毎回、矢取りをおこなった後に、矢の破損などがないか確認する。） 3. 試合・合宿時に安全面の意識向上と再発防止について研修を行い、認識を深めていく。
高校 2021 年 10 月 5 日 校内練習場	**<u>矢の射場外への飛び出し事故</u>** 顧問指導下で５０mの練習中、カーボン矢が的上方にそれ、的後方の防矢ネットをすり抜け射場後方に設置された防矢ネットに当たるも貫通。矢は隣接する民家の雨戸シャッターに刺さった状態で発見された。ただちに練習を中止し、住民に謝罪。学校管理職に報告し、管理職から再度謝罪した。 **【対応】**

	防矢ネットの劣化と民家方向への行射を問題として捉え、射場の安全が確実に確保できるまで射場での実射練習は中止。
高校 2020 年 2 月 19 日 練習場	<u>**ストリング（弦）の装着失敗によるケガ**</u> 自主練習の際、ストリンガーを使って弦を張ろうとしたところ、ストリンガーがチップから外れ、リムが顔の方にはね、右瞼に当たり出血した。ストリンガーのチップにかける部分は、競技用のチップが小さいリムに合わせて作られており、チップに掛ける部分が小さく使用していたチップの大きいレンタルリムに対して掛かりが浅かったと推測される。 事故当時、顧問は現場には付き添っていなかった。 **【対応】** 現場にいた他の部員が保健室と顧問に連絡され、負傷した生徒自身がティッシュを当てて止血後に病院に行き受診を行った。 クラブとしては当面の間の朝昼の自主練習を禁止しする対応を指示した。その後、クラブが再開される前日にミーティングを行い、事故の報告と安全指導を行った。 弦を張る場合に限らず、緊張感をもって行うとともに、事故を防ぐ意識だけでなく、万が一事故が起こった時にけがをしないような立ち位置や、行動の仕方を意識するように伝え、定期的に安全指導を機会あるごとに事故例を挙げて注意を行い予防に努めることとした。
地域協会 2019 年 11 月 3 日 競技会中	<u>**コンパウンドの暴発事故**</u> 大会競技中(コンバウンド部門）ドローイング中リリーサーフックロープ上部が切れ(ループが外れた模様）体育館ステージ上部に矢を打ち込んだ。 破損部分に明確な経年劣化は見られず、事前の弓具検査においても異常は発見できない状況であったこと、 また、選手も長く CP の競技に携わり、常にメンテナンスを行っており、ドローイング方法についても問題はなかったことから、事前に予測は困難であった。 本人については直ちにウェイティングライン後方に下がらせ、他の選手及び役員にケガ人が無いことを確認した。 その後に行射については時間まで実施し、行射終了後に打ち込まれた矢を回収した。 審判長が弓具の破損状況を確認したが、当該選手については、本人の申し出もありその後の競技を棄権した。 **【再発防止策】** CP の選手に対してはその場で、道具の再点検及び今後の練習における射形の再確認を実施して頂くように指導した。併せて、大会閉会式において RC の選手を含めた当日の参加選手に対して、同様の事例発生のないように、弓具や射形を見直して頂くこと、各高校の顧問教員には事故防止の観点で選手生徒に指導頂くように依頼している。
高校 2019 年 11 月 2 日 校内射場	<u>**矢の射場外への飛び出し事故**</u> ５０mの距離で矢が垂れて的に届かない１年生の選手がいたため、他の選手が協力して照準の調整をしていた。当該選手の技術は未熟なため、翌日の試合は５０mの距離には出場しないで３０mから出場する予定であったが、なんとか試合で射たせてやりたいと思い１・２年生で行

	った。かなり上向きで発射する設定にしても下方に行くため、他の１年生が手本を見せようとその選手の弓で１本発射した。その１年生は技術があり、また遠方へ届く自分の矢で射ったため、的面上方の高さ７ｍのネットの上方を越え矢が場外に飛び出した。 その後部員たちで矢の捜索に当たった。約２０分後に顧問が練習場に行き、状況を確認する。後方に飛んでいる可能性が高いため確認したところ、学校東側の医院の窓ガラスに孔を発見する。医院は午後休診中では不在であった。顧問が院長先生の奥様に連絡を取り、１７時３０分頃に奥様においで頂き内部を確認する。ガラスを破った矢がトイレの引き戸に当たり、床に落下していた。医院に伺い謝罪と状況説明を行う。 **【対応と対策】** 被害地主への謝罪（教頭・部活顧問） 練習の停止 安全対策の検討　行射方向の変更及び安全対策